

今週（10月24日から10月28日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場 無担保コールO/N物は、マクロ加算残高に係る基準比率の上昇を背景に、基礎残高を多く有する先からの調達を中心となった。他方で、地銀業態の調達量は引き続き減少傾向となっているものの、マクロ加算残高枠に余裕を残している先もあり、一部でレート水準を上げて調達をする場面も散見された。加重平均レートは、27日までは▲0.06%前後で落ち着いた推移となったが、28日は週末要因からレート水準をやや切り上げて調達する先も多く見られた。

ターム物は、ショートタームを中心に▲0.06～▲0.05%程度での出会いが散見されたものの、金融政策決定会合を控え、先行き不透明感もあるなか、動意に乏しい展開となった。

日銀当座預金残高は、25日の短国6M物の償還や、27日の財政資金の払い、各種オペ要因により大幅増加が見込まれていたものの、為替介入と思われる減少要因も大きく、結果として、490兆円台前半から半ばでの推移となった。

今週は、長期金利の高止まりを受け、カレント3銘柄を対象とした指値オペへの応札額が増加し、週間で19,500億円程度となった。また、26日にオファーされた輪番制の国債買入オペでは、増額措置が取られた（残存期間3年超5年以下：4750→5,750億円、残存期間5年超10年以下：5,500→6,500億円、残存期間10年超25年以下：2,500→3,500億円、残存期間25年超：1,000→1,500億円）。

10月27～28日に開催された日銀金融政策決定会合では、現状維持が決定された。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.09～▲0.075%のレンジでの取引となった。27日から28日にかけて金融政策決定会合が開催されたが、レート水準に大きな影響は無く、週を通して安定した推移となった。

SCは、カレント銘柄近辺やチーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、27日に3M物の入札が実施された。結果は、事前予想に比べやや弱めとなったが、結果発表後のセカンドリーマーケットでは堅調な推移が見られた。動意に乏しいマーケットが続く中、27日の入札結果を受け、その後の3Mゾーンは軟調な展開となった。

25日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回り較差+0.011%、平均利回り較差+0.019%とやや弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、月末発行にあたり電力、化学、鉄鋼、機械等、複数の業態から大型発行が実施された。市場残高は、26兆3,000億円程度と10月に入り3兆円程度増加している。今後は年末資金需要の高まりにより、更なる増加が見込まれる。

発行レートは、9月末のCP残高減少の影響などにより投資家の玉確保ニーズが強まっており、概ね0%近辺での決着が中心となった。また、発行残高の少ない銘柄では浅いマイナスでの発行が見られるなど市場レートは低下基調となっている。

CP等買入オペは、26日に事前予定通り4,000億円でオファーされた。結果は按分レート+0.001%、平均落札レート+0.012%と前回比（按分+0.001%・平均+0.006%）で按分は横ばい、平均は上昇となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
10/24（月）	26,974.90	0.250	146.00	△ 0.057	△ 0.075	4,919,600
10/25（火）	27,250.28	0.250	149.00	△ 0.059	△ 0.081	4,909,700
10/26（水）	27,431.84	0.250	148.16	△ 0.060	△ 0.086	4,902,600
10/27（木）	27,345.24	0.250	146.11	△ 0.056	△ 0.091	4,939,800
10/28（金）	27,105.20	0.241	146.60	△ 0.052	△ 0.091	4,945,900

来週（10月31日から11月4日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/31 (月)	9月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 9月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 10月の消費動向調査(内閣府 14:00) 9月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)				10月のシカゴPM景況感指数 10月のユーロ圏消費者物価指数速報値 7-9月期のユーロ圏GDP1次速報
11/1 (火)		10Y 27,000億円 11/2発行	交付税借入 13,000億円 11/14借入		米FOMC(1日目) 9月の米建設支出 10月のISM 製造業景況指数
11/2 (水)	10月のマネタリーベース(日銀 8:50) 金融政策決定会合議事要旨(9月21・22日分 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)				米FOMC(2日目)
11/3 (木)	文化の日				英中銀MPC結果発表 9月の米貿易収支 9月の米製造業新規受注・出荷・在庫 10月のISM 非製造業景況指数
11/4 (金)	11月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	TB3M 60,000億円 11/7発行			10月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/31 (月)	200	▲ 300	▲ 100	国債補完 CP買入 社債買入	23,900 ▲ 2,200 ▲ 200	4,000	25,500	25,400	TB3M発行▲60,000 償還56,000
11/1 (火)	▲ 1,000	▲ 26,000	▲ 27,000				0	▲ 27,000	2Y発行▲28,000償還5,200
11/2 (水)	1,000	▲ 30,000	▲ 29,000				0	▲ 29,000	税・保険料揚げ 普通交付税 10Y発行▲27,000 交付税借入▲13,000償還13,000
11/3 (木)	文化の日								
11/4 (金)	500	▲ 1,000	▲ 500				0	▲ 500	
週間合計	700	▲ 57,300	▲ 56,600	—	21,500	4,000	25,500	▲ 31,100	

10/31は日銀予想、11/1以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き大手行の動向に左右されるものの、レート水準に大きな変化はなく▲0.07～▲0.04%近辺での推移を予想する。

債券レポGC O/N物は、▲0.10～▲0.06%のレンジでの推移を予想する。

短国市場は、11月4日に3M物の入札実施が予定されている。また、10月31日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。

CP市場は、月初の発行となり落ち着いたマーケットが予想されるが、年末を控えて案件がどの程度膨らむか注目される。

主要なイベントは、国内では、31日に9月の鉱工業生産・出荷・在庫速報、11月2日金融政策決定会合議事要旨公表、海外では、31日に10月のユーロ圏消費者物価指数速報値、11月1～2日に米FOMC、3日に英中銀MPC、4日に10月の米雇用統計などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入